

## 教育講演

### ◆柔道整復学と健康・医療心理学の学融：健康ケアの視点

帝京科学大学大学院医療科学研究科 津田 彰

【key words】柔道整復学と健康・医療心理学の学融、健康ケアの実際、研究と実践の包括ケア

#### 【Abstract】

健康ケアの視点から柔道整復学と健康・医療心理学の学融(もしくは融合)について話題提供を行う。柔道整復学も健康・医療心理学もいずれも、人々の「健康づくり」の支援に貢献することで、「QOLの向上」を目指す点で共通している。前者が、「外傷の予防・改善、運動による健康ケアの増進」を柱とした専門的活動を行うのに対して、後者は、「心理・社会的側面から健康ケアの増進」を中心とした行動変容を試みる点で方法論(介入ストラテジー)が異なる。昨年からの新型コロナウイルスのパンデミックによって、健康ケアは、身体的側面のみならず、心理的側面、社会的側面と互いに関連づけて行わなければならないことを改めて教えてくれた。今夏開催された東京オリンピックでは、トップアスリートといえども、メンタルヘルスの問題に脆弱であること、最高のパフォーマンスが発揮されないことが起こりうることを明らかにしてくれた。これらのエピソードとイベントは、柔道整復学と健康・医療心理学の学融を通じて、新たな可能性と地平線が切り開かれることを示唆する。健康ケアの視点から、1)柔道整復学と健康・医療心理学の学融とは何か。2)学融による強みを研究と実践の包括ケアにどのように活かすかなど考察する。心と身体を持った人間が社会という日常生活の枠組みの中で、その人の人生の過程に沿って理解し、その人が自ら健康づくり(健康ケア行動)に取り組めるようにかかわることができる柔道整復師の可能性とニーズについて提言できれば幸いである。

### ◆膝のテーピング～様々な場面に対応できるテーピングスキル～

了徳寺大学健康科学部 野田 哲由

【key words】膝、テーピング、キネシオロジーテーピング

#### 【Abstract】

この教育講演では、柔道整復師が施術で行う膝のテーピングについて改めて整理して会場の皆さんと再考してみたい。エビデンスも重要だが、個々の患者様の膝の状態にあったテーピング・スキルが求められている。まさに、オーダーメイドであり、柔道整復師として個のテーピング・テクニクが重要であると考えられる。教科書に載っている膝の内側側副靭帯損傷再発予防のテーピング技法も患者様のケガの損傷度合い、回復度合い、筋力や競技特性、歩行容姿、走行のフォーム等々、様々なデータを評価して、その患者様、選手にあったテクニクを屈指しなければならない。そして、受傷直後の応急処置のテーピング、日常生活でのテーピング(変形性膝関節等)、スポーツ場面での膝の再発予防のテーピングなど、高齢者から子供まで、一般の方からアスリートまで、様々な場面に対応できるテーピングのスキルが柔道整復師には必要である。また、Jリーグで最近になって使用されている新しい素材のテープを使用した技法も紹介していく。